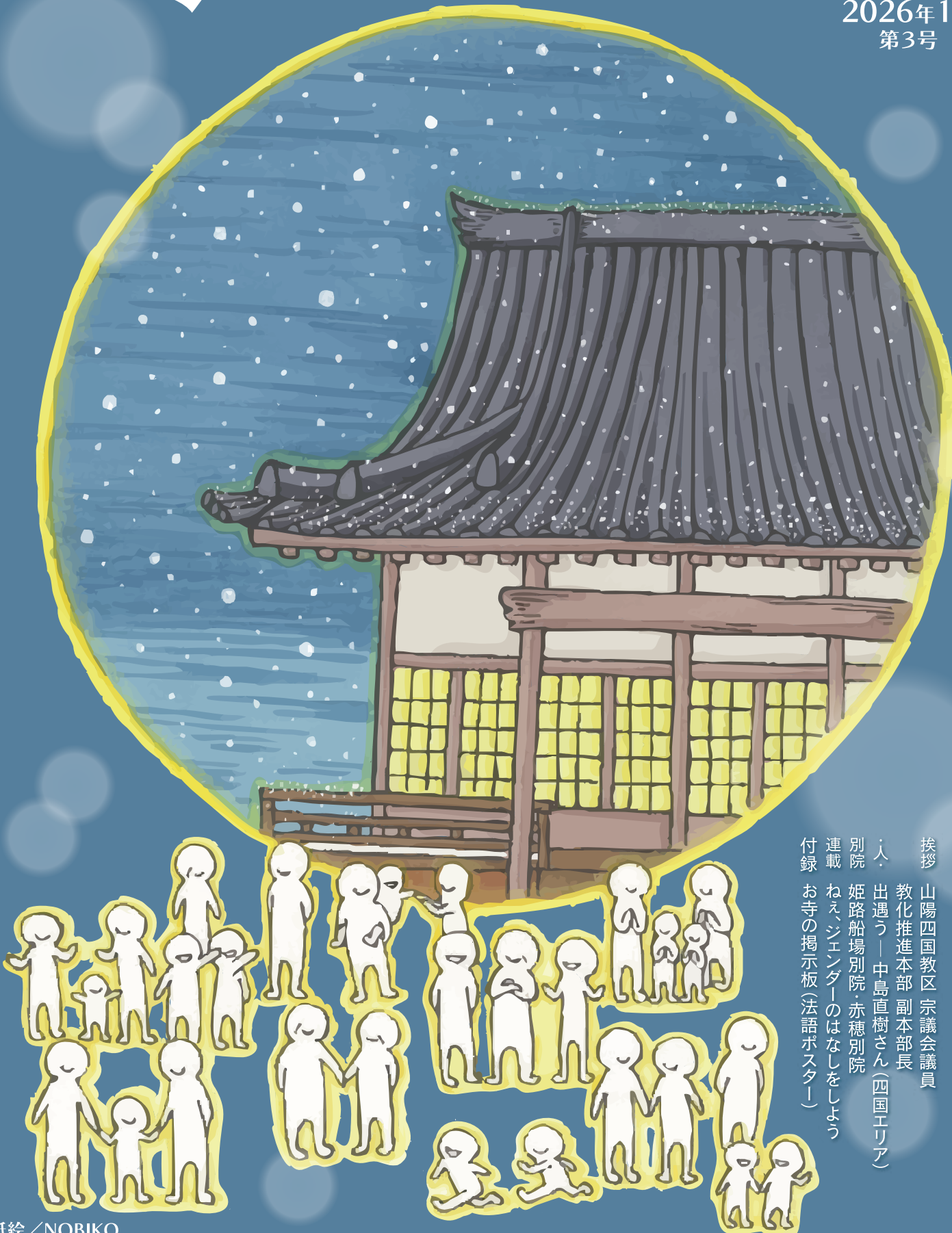


かけはしさんし SunSea

2026年1月
第3号



表紙絵／NOBIKO

特集

戦後80年の非核非戦

挨拶 山陽四国教区宗議会議員
教化推進本部 副本部長
人 出遇うー中島直樹さん(四国エリア)
別院 姫路船場別院・赤穂別院
連載 ねえ、ジェンダーのはなしをしよう
付録 お寺の掲示板(法語ポスター)

かけはしSun・Sea 第3号 2026年1月 発行/山陽四国教区 編集/山陽四国教区教化委員会広報部門 問合せ/山陽四国教務所 〒670-0044 兵庫県姫路市地内町1 TEL 079(292)3690

山陽四国教区
Online tool



WEB SITE
ウェブサイト



YouTube
ユーチューブ



Kyomusyo
LINE
山陽四国教務所ライン



KOHOLINE
広報部ライン



お気に入り登録・友だち登録
をぜひお願いします。

Season2-Vol.1
ねえ、**ジェンダー**の
はなしをしよう Respect all genders

登場人物



…海ちゃん



…山ちゃん

< 海ちゃん・山ちゃん



お寺でカルタをやってきたよ

え？カルタ？



そうそう。
めっちゃおもしろかったんよ。

お

「鬼に金棒」、みたいなの？



ちがう、ちがう。
お はね、



やで。



え？えーっ!?



これね。
あいあうカルタ っていうんよ。
ジェンダーカルタなんやって。

へえ。おもしろそう。
私もやってみたかったなあ。



次もあるけど一緒に行く？

社会問題部門 ジェンダー問題分野



連載リニューアル企画 /



あのシーズン2が始動します。

山陽四国の皆様 こんにちは。

山陽四国教区が始まり、男女共同参画の委員会が一緒になって**ジェンダー問題分野**として動き始めました。

そのひとつとして旧四国教区で続けてきた『教えて！釋さん、ジェンダーって何？』というコーナーのタイトルを『ねえ、ジェンダーのはなしをしよう Respect all genders』と改め、本紙で発信していきます。教わるというよりは一緒に考えてみよう、話し合ってみようという気持ちでこのタイトルとしました。このSNS風の会話の中でできるだけいろいろな場面、テーマのジェンダー問題について取り上げていこうと思っています。

例えば、左の会話の中のカルタに、**お**『おめでとう！性別問わずに祝福を』とありますが、お寺では男の子を産んで欲しいと思われる方がまだまだ多いのでは？

今まで"ふつう"(あたりまえのこと)としてきたことが、気づかずに誰かの、或いは自分の生きづらさを生んでいないでしょうか？

「皆一人ひとりがともに“自分”から自由になり、輝き、生きることを喜べるように」ちょっと立ち止まって一緒に考えてみませんか？

また、このコーナーを見てのご意見、ご感想などお待ちしております。

旧四国教区広報誌に掲載された過去のものについては下のQRコードで見られます。



教えて！釋さん
ジェンダーって何？
アーカイブはこちらから

あいあうカルタ

本山女性室が2011年に発行した冊子を2025年に一部改訂して発行された冊子、カルタ。

戦後80年の非核非戦

被爆80周年。今号は「非核非戦のつどい」「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」「非核非戦法会兼原爆 死没者追弔会」を特集いたします。

去

る5月17日、広島市のJMSAステールプラザ中ホールにて開催された、「非核非戦のつどい」私・現在・未来（山陽教区被爆80周年 非核非戦のつどい）には、多くの方々にご参加いただきました。

このつどいは被爆80年という節目にあたり、私たち二人ひとりが自らの歩みをどう受け止め、未来へどう渡していくのかを確かめる大切な時間でもありました。今回、当日の趣旨説明として述べられた全文を、あらためてご紹介いたします。

つどいに参加された方には振り返りとして、また参加が叶わなかった方にも、その思いを共有いただければ幸いです。



左:切明千枝子氏(被爆体験証言者) 右:佐藤 優 氏(大学生)

わたし いま これから 非核非戦のつどい私・現在・未来～ 非核非戦のつどい趣旨全文

2025年夏、広島は被爆80周年を迎えます。

被爆者の平均年齢は85歳を超え、被爆証言を直接聞く機会は間もなく終わろうとしています。戦争は私たちの暮らしや生命、自由を奪うだけでなく、他の生命、文化を奪うことに加担させます。現代の世界情勢や軍備増強に走る日本の姿に「戦前の雰囲気だ」と語る戦争体験者も少なくありません。

「平和」は、じっと待っていても来てはくれません。みんなで懸命に守らないと、逃げてしまいますー

15歳で被爆した切明千枝子さんのメッセージからは、戦争の被害者にも加害者にもなりうる私たちの在りようが問われています。

今、若い世代には被爆者の記憶を継承する活動や、世界のあらゆる核被害に苦しむヒバクシャとつながり、戦争や核の無い道を求める交流が広がっています。この動きは希望です。

私たち真宗大谷派山陽教区は宗祖親鸞聖人のお念仏の教えに依って、非核非戦の誓いを繰り返し確かめてまいりました。

このたび、平和を求める人々と共に、被爆者・戦争体験者の声を聞き、浄土真宗の教えに聞き、非核非戦の願いを未来につなぐため、この「つどい」を開催いたします。



「非核非戦のつどい」(5/17開催) 配信中。



真宗大谷派 山陽四国教区【公式】



広島市原爆死没者慰霊式 並びに平和祈念式



広島市原爆死没者慰霊式並びに

平和記念式 参拝レポート

広報部門 泉原奈都子

8

月6日、この日は早朝からどこのお寺もお墓参りが絶えません。

8時15分、原爆死没者慰霊碑前で平和記念式典(正式名称/広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)が毎年執り行われます。

慰霊碑には、広島で被爆して2025年8月5日までに亡くなった国内外の34万9246人の名前と亡くなった日が名簿129冊に記され納められています。

一方、各宗教団体が代わる代わるお勤めする原爆供養塔には、家全滅となった方や引き取るご遺族が見つからない方、また名前さえ判別していない方々のご遺骨、約7万柱が納められています。真宗大谷派もこの日の19時過ぎより、原爆供養塔前で追弔会を勤修いたしました。

広島市では現在も供養塔納骨名簿を公開し、遺族を捜しています。

広島・長崎に原爆が落とされ、2025年で80年を迎えました。早朝からお墓参りに訪れる人の姿は今も見られますが、その数は年々減ってきています。

非核非戦のつどい

ー 平和への願いを染めてー

「山陽教区被爆80周年非核非戦のつどい」で使用された打敷は、2025年3月に開催され



た「児童春のつどい」において、未来を担う子どもたちが平和について考える機会となるよう、作製されました。美術造形作家の戸川幸一郎さんに監督いただき、一人ひとりが自由に描くことで平和への願いを表現しました。

高齢化により、被爆者の生の声を聞く機会も限られ、後世に残すために体験者の伝承活動も、講話だけでなく絵本制作など様々な形で積極的に行われています。

私は奈良で生まれ育ちましたが、被爆二世です。父は長崎の出身で、原爆投下の翌日、市内の実家に戻り、入市被爆しています。父から原爆の話聞いたのは晩年の一度だけ。涙ながらに話したのは「川は死体の山で地獄だった」とそれ以上語ることはありませんでした。

私自身も中学の担任から「お父さん原爆手帳持つてらんだってね。だったらあなた、被爆二世ね」と心無い言葉を浴びせられ、15年間誰にも話すことができませんでした。

広島の人々も結婚の際、「色が白いは親が被爆したから」と差別を受けたと聞きました。

戦争は一生心に深い傷を残します。戦争を体験していない二世も思わぬ差別を受けることもあるのです。

広島にお越しの際は平和資料館はもとより、様々な活動に触れ、また原爆供養塔もお参りしていただけたらと思います。

非核非戦法会

兼 原爆死没者追弔会

広島別院参拝レポート 広報部門 藤井摩耶



広島別院明信院では、毎年7月6日に「非核非戦法会兼原爆死没者追弔会」が勤修されており、私は今年、はじめてその法会にお参りさせていただきました。雅楽の入った荘厳なお勤めの後、講師である被爆体験証言者・切明（きりあけ）千枝子さんと、被爆証言の伝承に取り組む佐藤優さんのお二人からお話を聞かせていただきました。

切明さんは現在95歳で、15歳の時に爆心地から1.9キロの地点で被爆されました。建物の影にいたことから、ご自身は命に関わるような怪我をされなかったものの、その時目撃し、体験した凄惨な体験を目に涙をにじませながらお話してくださいました。原爆の熱風の直撃を受けた下級生たちの姿。全身火傷が化膿し、虫が湧き、苦しむ下級生たちの体に、薬代わりの古い天ぷら油を塗ることしかできなかったこと。死んでもいいから水を飲ませてと言っていて、それでも水を飲むことなく亡くなっていた人のこと。そうして亡くなっていた大勢の学友を先生の指示で火葬したこと……切明さんはその時の光景や臭



いや音を忘れてしまいたいと思いながら戦後を生きてこられたましたが、忘れることはできず、85歳の時にこれは忘れてはいけない、伝えなくてはならないことなんだと思いなおし、証言活動をはじめられたそうです。

思い出すのもつらい体験を、こうして人前で語る活動をされているのは、ひとえに二度と同じことを繰り返して欲しくないという願いからです。

切明さんはおっしゃいました。「戦争は人も動物も植物も、すべてを皆殺しにしよう。みんなで力を合わせて、平和を守ってください。もう二度と戦争に巻き込まれても、ましてや起こしても



いけない。」

二人目の講師である佐藤さんは、切明さんをはじめとする被爆体験者の方々の願いを受け止め、紙芝居や本、オンライン証言会など様々な形で原爆のこと、戦争のことを発信し、未来に伝えるべく、プロジェクトで資料を示しつつ落ち着いた様子で話しながらも、そのしなやかな言葉には強い志が垣間見えます。先人の言葉に耳を傾け、それを受け継ぎ伝える道を自ら進む若い語り部の存在を知った私は、心の底から感激しました。同時に、一部の優れた人を英雄視して自分は傍



観者に徹するのではなく、ひとりひとりができることをしなければならぬと改めて思いました。

「非核非戦法会兼原爆死没者追弔会」は「原爆死没者をはじめ、すべての戦争犠牲者を追悼し、仏教の視点から非核非戦を願い、仏様の教えを聞く法会」です。戦争加害と被害の歴史を抱え、唯一の被爆国であり、戦争の永久放棄を憲法に謳う現代日本の仏教者として、この法会の精神を広島から全国へ、そして世界中に広げていくことも私たちの大切な役割なのだと強く感じています。

戦後50年を経た1995年6月、真宗大谷派は、自らの罪責を懺悔し人類の願いを「不戦の誓い」として表明しました。

「不戦決議」

私たちは過去において、大日本帝国の名の下に、世界の人々、とりわけアジア諸国の人たちに、言語に絶する惨禍をもたらし、佛法の名を借りて、将来ある青年たちを死地に赴かしめ、言いしれぬ苦難を強いたことを、深く懺悔するものであります。

この懺悔の思念を旨として、私たちは、人間のいのちを軽んじ、他を抹殺して愧じることのない、すべての戦闘行為を否定し、さらに賜った信心の智慧をもつて、宗門が犯した罪責を検証し、これらの惨事を未然に防止する努力を惜しまないことを決意して、ここに「不戦の誓い」を表明するものであります。

さらに私たちは、かつて安穩なる世を願い、四海同朋への慈しみを説いたために、非国民とされ、宗門からさえ見捨てられた人々に対し、心からなる許しを乞うとともに、今日世界各地において不戦平和への願いに促されて、その実現に身を捧げておられるあらゆる心ある人々に、深甚の敬意を表するものであります。

私たちは、民族・言語・文化・宗教の相違を越えて、戦争を許さない、豊かで平和な国際社会の建設にむけて、すべての人々と歩みをとることを誓うものであります。

右、決議いたします。

1995年6月13日 真宗大谷派 宗議会議員一同
1995年6月15日 真宗大谷派 参議会議員一同

私たちは、この決議の重みを再確認し、平和の意味、そして自らの姿を問いたいと思います。

決議より30年、基地問題で苦しみ翻弄される沖縄に何度も訪問視察してきましたが、寄り添うことの難しさを痛感しました。

戦争の悲惨さと愚かさに対する感覚は時の経過と共に風化しつつあり、加えて、現在も続いているロシア連邦によるウクライナへの侵攻は、未だ終息の兆しは見えず、核兵器の使用をも示唆し威嚇しています。パレスチナ・イスラエル紛争も、激化の一途をたどっています。

戦後80年を迎える今、身近なところはもとより、多くの犠牲を出した、激戦地沖縄や被爆した広島・長崎での体験を語ってくださる方も少なくなっています。

「怨みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息むことがない」（『法句経』）
永い人類の歴史は、人が人を殺し、傷つけ合う悲しみの連続でした。如来の願心は、自我愛を正当化して「賜ったいのち」を奪い合うことを悲しみ、私たちに「共に生きよ」と教えられています。

私たちは、この教えを聞きひらき、自らの姿を問う学び、戦争の悲惨さと愚かさを次世代へ伝承するために、あらためてここに「非核非戦の誓い」を表明します。

2025年6月7日 真宗大谷派 宗議会議員一同
2025年6月9日 真宗大谷派 参議会議員一同

「非核非戦決議2025」を受けての 山陽四国教区としての決意表明

本山では1995年に『不戦決議』、2015年に『非戦決議2015』が議決され、そして戦後80年・被爆80年を迎える本年、第77回宗議会議（常会）及び第74回参議会議（常会）において『非核非戦決議2025』が議決されました。私たち山陽四国教区教区会議員、教区門徒会員はこの決議に賛同いたします。

今回の決議名に「非核」という名が付け加えられたのは、核保有国が核兵器で他国を脅し、更に恐怖の連鎖から防衛の名の下に核兵器が世界に拡散していくことへの危機感の表れであります。

人類の歴史は平和・平等・自由を希求しながらも、常に戦争と差別と抑圧を生み出してきました。そのような矛盾を抱える「私」にこそ仏の願いがかけられていることを胸に刻み、本願念仏の教法をもって自らの歩みを点検してまいります。

戦争を過去の事とせず、私の「今」が「未来」を創るという自覚のもと、非核非戦の願いを次世代へと繋いでいくことを決意表明いたします。

上記決議いたします。

2025年7月23日 真宗大谷派 山陽四国教区教区会議員一同
2025年7月24日 真宗大谷派 山陽四国教区教区門徒会員一同

『山陽四国教区教報』2025年（124頁）



第6組
兵庫県
洲本市
浄泉寺
望月 慶子
もちづき けいこ

【同朋会運動と女性】

「男女両性で形づくる教団」を願って議員になり6期21年、真宗興法議員団の一員として、女性の主体的参画を願い、議会を変えたいと思い活動しています。現在、男性議員61人、女性議員4人。真宗大谷派宗憲の前文には「同朋社会の顕現」「同朋公議」の基本精

神からいえば、男性僧侶中心で宗門や寺院が運営され、女性の意見や考えが十分に受け入れられていないことに不甲斐ない思いをしています。

現在、宗門の有教師は16532人、男性13678人、女性は2854人になっています。山陽四国教区は、男性593人、女性145人。どうなのでしょう。

宗教法人法や寺院の規則は、代表役員の住職に大きな権限が与えられていますが、宗憲の精神に則って考えてみると、特別措置条例で組門徒会が女性の参画の増加に結びついたことから、坊守も宗政に積極的に参画できるような方途を考えています。

転換期にある時代と宗門であることを認識しながら、活動して行きます。

真宗大谷派
東本願寺
shinshu Otani-ha
Higashihonganji

山陽四国教区 宗議会議員 ご挨拶



第4組
高知県
土佐清水市
誓願寺
浜口 和也
はまぐち かずや

このたび、山陽四国教区選出の宗議会議員としてお役目を賜りました。宗派の最高議決機関としての職務である「行政のチェック」と「立法」に一層の責任と使命を持ちつつ、教区の代表としても、財務、教化のあり方、組織態勢を見極め、教区の皆様とともによりよい仕組みを構築出来るよう取り組んでいきたいと考え

ています。

選挙運動の中で、「次の世代へ宗門を相続するために、もっと理想を語り、具体的に取り組んでいこう」をスローガンに掲げました。▼性別や人種・国籍を問わず、誰もが本願念仏の教えを聞ける宗門へ▼本山や教区が、地方の過疎・疲弊した寺院への人的・物的サポートを行う▼社会から必要とされる教団をめざすなど、こういう理想をもっと教区内の皆様と一緒に考えて行きたいと思います。

また、具体的な取り組みとしては、「坊守職」の制定へ向けた法整備ができないかというご意見をたくさんいただきました。あわせて、「教区制・組制」についても、坊守・衆徒の被選挙権・議決権の制定へ向けた取り組みを進めてまいります。

教化推進本部
副本部長 挨拶

この度、教化推進本部副本部長を拝命いたしました。兵庫県西部の相生市在住です。教区改編に伴い新しい出会いが増えることを喜んでいるとともに、旧来の事業をどう引き継いで行くのかという課題と、新たに山陽四国教区としてどのような事業が願われているのかという課題に取り組んでまいりたいと思います。皆様からのご意見をいただきたいと思いますのでどうぞ気軽にお声がけください。



ごとう いさお
後藤 功 赤穂組 西教寺

今年度、教化推進本部副本部長を拝命いたしました。新教区発足にあたって教化委員として二つのつながりを大切にしたいと思っています。一つは山陽エリアと四国エリアのつながりです。今まで全く違った体制であった二つの旧教区ですが、それぞれの文化を学び合い、交流を深めて共に新しい歴史を創っていきましょう。もう一つは、教区教化委員会と各組のつながりです。教化委員として当然ですが、出来る限り多くの教区教化の現場に足を運びたいと思っています。見かけましたらお気軽に声をかけていただき、教化委員会、事業へのご要望、ご不満、組教化での困り事等、忌憚なくお聞かせください。どうぞ宜しくお願いいたします。



まきの かつあき
真城 克朗 伊予組 圓照寺



第4組
兵庫県
姫路市
興宗寺
木村 慎
きむら しん

旧山陽教区仏教青年会では、少しずつではありますが、「宗政」のことを課題にして学びの場を開いてきました。そのなかで、「宗政」が実は私たちの日常に大きく関わる問題であることを認識してきました。「宗政」の動きによって教区や組、それぞれのお寺での活動

が左右されていきます。それならば「宗政」が変わることで、私たちの日々の取り組みをもっと充実させていくこともできるのではないかなと思うようになりました。一方で、その「宗政」をどこか無関心で他人事にできたようにも振り返られます。宗門に関わる一人ひとりが、少しずつ「宗政」に関心を寄せながら声を出し合うことができれば、教化の現場をきちんと見据え、支える宗門の動きを作っていくことができと思っています。宗門が抱えている課題を身近な言葉で発信し、現場の声を「宗政」に届けるということを、教区の皆様と共にしていきたいと思っています。

出遇う

つながるひろがる教区人

VOL.2



なかじまなおき

インタビュー／高知県 土佐組 長法寺 中島直樹さん

高知県の長法寺で住職を務めながら土佐別院の列座として務められている中島さんは、営業職や介護職を経て仏教の世界へ飛び込んだ異色の経歴の持ち主。地域に根ざしたお寺づくりを目指し、日々奮闘する中島さんに、これまでの歩みと現在の取り組み、そしてこれからの展望についてじっくり伺いました。

「まずは、長法寺へ入寺することになったきっかけから教えてください。」

最初はまさか自分が住職になるなんて思っていなかったんです。もともと車の営業をやっていて、その後は介護の仕事を8年ほど。営業はやりがいもあったし、成績も悪くなかった。でも、ふとした時に、このまま車を売り続けていいのかなって思ったんですよね。

介護の世界に飛び込んだのは、これからの時代に必要とされる仕事だと思ったから。僕が介護の仕事で働きだした頃は今みたいに介護事業も多くなかったですからね。実際にやってみると、体力的にも精神的にも大変でしたけど、人と深く関わる仕事の面白さを知りました。

そんな時、祖母から「お寺を継いでほしい」と連絡があつて。最初は断るつもりでした。田舎に戻

るのも気が進まなかったし、何より自分に務まるのか不安だった。でも妻の母の実家が日蓮宗のお寺だったこともあって理解がありま

した。それで仕事を辞めて同朋大学の別科で教師資格を取りながら仏教を学ぶことにして、妻が看護師として働いてくれて、僕は勉強に専念することができました。

「教師取得後お寺に入ってみて、いかがでしたか？」

正直、最初は戸惑いました。仏教って、外から見ているのと同じに入るとでは全然違うんです。用語も作法も、何もかもが初めてで。だからこそ、しっかりとした研修が必要だと感じました。

そこで別院の列座職を引受ける条件として本山での「列座研修」を受けさせてもらいました。本山中で2ヶ月間、泊まり込みで朝から晩まで勉強でした。最初は引き戸の開け方から始まって、歩き方、座り方などなど基礎から学びまし

た。厳しいけれど、あの経験がなければ今の自分はなかったと思います。

研修では、ただ形式を覚えるだけじゃなくて、仏教の根本にある「人と向き合う姿勢」も学びました。それが今、地域の人と接する時にも活きていると思います。

「営業や介護のご経験が、今の寺の運営に活かしていると感じることはありますか？」

めちゃくちゃありますね。営業って、結局は人と人との信頼関係を築く仕事なんです。お寺も同じで、信頼がなければ誰も来てくれない。介護もそう。相手の立場に立って考えることが大事で、それは今の活動にも通じています。

例えば、イベントを企画する時も、どうしたら人が来てくれるか、どうしたらまた来たいと思ってもらえるかを常に考えます。これは営業時代に培った感覚ですね。あと、クレーム対応も得意です（笑）。お寺でも、時には厳しい声をいただくこともあるので、そういう時に冷静に対応できるのは、営業経験のおかげだと思っています。

「お寺と一般企業の違いをどのよ

うに感じていますか？」

やっぱり企業というのは「利益を出すこと」が第一に求められる場所なんですよね。一方で、お寺の世界に入ってみて、まず驚いたのは「目的の違い」でした。お寺では、利益を求めることはありません。もちろん、お布施をいただくことはありますが、それはあくまで「結果として」なんです。

最初から「どうやって儲けるか」を考えることはない。まず人とのつながりがあって、その信頼の中で自然と生まれるもの。それが、お寺の営みなんだと感じています。

企業とお寺、求めているものは違っても、根底にあるのは「人に喜んでもらうこと」だと思います。企業は、喜んでもらうことで売上につながる。お寺は、喜んでもらうことで信頼が深まる。

どちらも人との関係が大事。でも、お寺の方が、より「心」に重きを置いている気がします。

「地域の方々とどんなふうに関わっているんですか？」

まず、物理的に塀を取り払いました。お寺って、どうしても「入りづらい」と思われがちですね。

だから、思い切ってお寺を囲っていた塀を全部なくして、誰でも気軽に入れるようにしたんです。イベントの時には、僕がコーヒーを淹れているんです。高知に帰ってきて住職になるまでの間で喫茶店の店長をしていたこともあって、コーヒーは得意なんです。お寺でコーヒーを淹れるって、ちょっと意外かもしれません。これがけっこう好評でして、話のきっかけにもなるんです。

最近では、障がいのあるお子さんを育てている親御さんたちが「話す場所がほしい」と相談にいられて、月に1回「話す会」を開いています。みんなが集まり、日常のことや悩みを話すだけです。ど、すごくいい時間になっています。僕はコーヒーを淹れて、場を整えるだけ。あとは自然に会話が生まれていくんですね。

それから、寺の駐車場では地元のケーキ屋さんが出店する「ミニマルシェ」も開催しています。2ヶ月に1回くらいのペースで、地域の方が集まる場として定着しつつあります。

最初は1店舗だけでしたが、ちよつと寂しいなと思って、知り

合いのお店を誘って増やしていっただけです。今では縁日みたいな雰囲気になってきました。お寺の境内でお菓子を売ったり、コーヒーを飲んだり、そんな時間を楽しんでもらえるのが嬉しいですね。塀を取り払ったことで、子どもたちが遊びに来るようにもなりました。昔は「お寺って入っちゃいけない場所」というイメージがあつたと思うんです。でも「いつでもどうぞ」という雰囲気になったら、自然と人が集まるようになったんですよ。

近所の方も、ちよつと立ち話しに来たり、コーヒーを飲みに来たりしてくださるようになってきました。お寺って、もつと生活の中にあつていいと思うんです。

最近「お寺で何かやってほしいよ」って口コミで広がって、初めて来てくださる方も増えてきました。そういうのが一番うれしいですね。お寺が地域の中で、ちよつとした居場所になっているのかなと思うと、やっていてよかったなと感じます。

さらに、地域の方から「こんなことやってみたい」と声をかけてもらうことも増えてきました。例

えば、子育て中の方が「お寺で絵本の読み聞かせをしてもいいですか？」と相談してくださったり、近くの高校生が「地域のボランティア活動に使わせてほしい」と言ってくれたり。そういう声が出てくるのが、何よりうれしいです。

「最後に、どんなお寺にしていきたいですか？」

今は長法寺の住職と土佐別院列座として法務をしています。そんなに法事や葬儀も頻繁ではないです。だからこそ、空いた時間を使って地域の人と関わったり、新しいことに挑戦したりできる。会社勤めの頃と比べたら、ずいぶん自由度が高いです。でも、自由だからこそ、自分で動かないと何も始まらない。誰かがやってくれるのを待っていても、何も変わらない。だから、僕はできることから少しずつ始めていくようにしています。イベントを開いたり、法事で使う日本語意識の載つたお勤め本を作ったり、話しやすい雰囲気を作ったり。そういう積み重ねが、少しずつお寺の形を変えていくんだと思っています。

お寺って、もつと気軽にいいと



お寺が、誰かの「ちよつと寄りつてみようかな」と思える場所になれば、それが一番の喜びです。
「本日はお時間をいただき、ありがとうございました。」
聞き手／広報部門 佐藤・光内

赤穂別院 妙慶寺



名称

赤穂別院妙慶寺

電話

079-292-3690

(山陽四国教務所)

住所

〒678-0239

赤穂市加里屋51番地の2

JR赤穂線「播州赤穂」駅

徒歩5分(約350m)

由来

妙慶寺の開基は、常陸笠間藩の藩主浅野内匠頭長直の叔母であり、若い時から江戸城の大奥に仕えていたが、老後は暇を願い、東本願寺十三代宣如上人によって得度し、妙慶尼と号して江戸浅草御坊内に寓居し念仏の生活を送っていた。そして、浅野長直が1644(正保元)年に播州赤穂へ転封になると、彼に従い赤穂へ赴き草庵を営んだ。翌年、赤穂城が改築された折、縄張り(設計)を担当した近藤三郎衛門正純と親交があったことから、築城の余材をもって御堂を建築したという。(中略)

この妙慶尼が示寂した後、妙慶寺は東本願寺十六代一如上人に寄進されたので、本山の掛所となり、播州西部の門徒の帰依処となっていた。(中略)

1967(昭和42)年に赤穂市の都市計画が実施に移され、別院敷地の一部が買い上げられた。同時に御堂も庫裏も老朽化していたことから再建が企図され、現在の鉄筋二階建ての建物に生まれ変わった。

(『別院探訪』東本願寺出版より)

姫路船場別院 本徳寺



名称

姫路船場別院本徳寺

電話

079-292-0580

FAX

079-228-0415

住所

〒670-0044

姫路市地内町1番地

JR姫路駅 徒歩15分(約1km)

由来

「船場御坊」の名前で地域に親しまれている船場本徳寺は、「真宗大谷派姫路船場別院本徳寺」という(山号は、「轉亀山」)。本徳寺のはじまりは、蓮如上人(1415～1499)がその晩年、下間空善(しもつまくうぜん)をはじめとする弟子たちを播磨に派遣したことによる。

空善らは英賀の浦(あがのうら)に道場を建立し布教した。この道場が二代実玄、三代実円の頃には「本徳寺(英賀)」と称し、本願寺の御坊寺院として播磨教団の中核となった。

しかし羽柴秀吉の中国攻め(1577～1582)

による播磨侵攻で英賀城が落城(1580)すると、秀吉により英賀から亀山に移転させられる。

さらに慶長年間(1596～1615)に本願寺が東西に分派した際、亀山本徳寺は、はじめ東派に属したが後に東本願寺教如上人(1558～1614)と姫路藩主池田輝政との間に確執が生じ、西派に転じた。

その後、池田家が没落し代わって姫路藩主となった本多忠政が元和4年(1618)に船場の寺地を東本願寺宣如上人(1604～1658)に寄進し、教珍が入寺した。ここに船場本徳寺が成立し、現在に至る。(船場本徳寺HPより)

Check

オススメ
グルメ

行くとこ迷ったらここ！



あこうばん

赤穂市加里屋中洲6-24

電話 0791-42-3565

定休日 月・火曜日

ジャンル パン

赤穂別院から徒歩10分。あこうばんのコンセプトは街のお母さんの存在。個性豊かなパンが沢山。人気のパンは完売することもあり、早めのご来店を！



美食倶楽部

赤穂市加里屋2188-11

電話 0791-43-8303

定休日 火曜日

ジャンル 定食・日本食

赤穂別院から徒歩2分。旬の食材を楽しむことができる。人気店のため、予約をしてから行くのがおすすめ！

行事のご案内

同朋の集い

毎月第1水曜日 14:00 勤行と法話

春の彼岸会法要

3月25日(水)14:00 勤行と法話

法話 村上彰文 氏(赤穂組大圓寺)

報恩講

4月19日(日)-20日(月)両日14:00

法話 箕浦彰巖氏(山陽四国教区駐在教導)

秋の彼岸会法要

9月下旬(秋分の日頃) 勤行と法話

別院清掃

毎月13日



行事のご案内

定例法話

毎月12日・27日13:00-15:00 勤行と法話

春彼岸会

毎年3月 春分の日前後3日間

秋彼岸会

毎年9月 秋分の日前後3日間

永代経総経

毎年秋彼岸会中

報恩講

毎年11月16日-18日

お煤払い

毎年12月25日10:00

報恩講スタンプラリー

毎年10月頃 真宗本廟・船場別院・崇敬組内協賛寺院による報恩講スタンプラリー「聞スタ」

別院清掃

毎月1回 第3 or 第4金曜日

別院近くの推しの店！

人気
NO1



ベーカリー54

姫路市小姓町33

電話 079-269-9002

定休日 日曜日

ジャンル パン

船場本徳寺から徒歩1分。パンの種類が豊富で朝7時から営業されているところもポイント。パン屋が作るシフォンケーキは所員一押し！



浜さき 船場店

姫路市米田町15-1

電話 079-292-2421

定休日 木曜日

ジャンル 中華料理

船場本徳寺から徒歩2分。アットホームな雰囲気のある昔ながらの町中華。まずは「浜さきセット」をご賞味あれ！



山陽四国教区

すべてのことが、
いつの日か
「無駄ではなかった」と
いえたらいい

「君たちへ」

出典『真宗児童聖典』（前付）

— 山陽四国教区 青少年部門 —



真宗大谷派 山陽四国教区



follow us /



お寺の掲示板